

白水大池公園の松枯れに 対する今後の対策について

金堂 清之議員
かんだう せいゆき

問

スギ・ヒノキと並んで日本を代表する樹種である松が「マツノ材線虫病」によつて毎年全国で九十万立方メートル程度が枯れ、貴重な森林資源が失われている。しかも、これらの被害木の大部分は、放置されているのが現状である。そこで、

①本市の松枯れ被害の経過状況及び白水大池公園での松枯れの現状は。②枯れ松撤去の方法や森林の手入れ整備状況は。③駆除され処分された松の利活用については。④松保護士の継続的な活用や民間所有者を含めた監視及び健全化の推進体制づくりの取組みについては。⑤手をこまねいているわけではないでしょうが、年間三千万円もの多額の対策費が毎年必要になるのではと危惧する。今後、どんな手法で予防対策を実施するのか。

答

①十八年度一三三本、十九年度は二五二本、今年度は六九二本を撤去。更に白水大池公園では一七四本、大牟田池では一九六本の松枯れが確認。

②撤去方法は早期の切り倒し、焼却処分や粉砕処分を行っている。白水大池公園の中の島は、撤出せず、固定して殺虫剤を振りかけ、駆除措置をしている。森林の手入れは、自然の営みに任せ、人為的な整備など特段の手入れは行っていない。③粉砕後のチップは牛糞に混ぜて堆肥として利用。④松保護士に事前の詳細調査と効果的な防除計画を依頼し、専門的ノウハウを継続的に活用しながら検討していきたい。⑤薬剤樹幹注入の効果的な実施及び、早期の撤去処分など対策を研究していく。

自治会活動に手厚い支援を



村山 正美 議員
むらやま まさみ

問

来々四月から包括的地域支援策として、地区世話人の廃止、自治会と公民館の組織の一元化、補助金の一元化が実施されようとしているが、地区世話人の廃止は、自治会未加入住民が行政の対象とはならない問題もある。

加入率など現在の自治会の実態を十分踏まえて、自治会加入



新築された塚原台公民館

者も未加入者も、この地区に住んで良かったと言ってもらえるような、自治会活動、住民自治の活動を本当に発展させるといふ立場で、自治会の業務を手厚く支援する体制を作るべきだ。

答

未加入者対策は今後も行政と自治会が連携をしながら対策を講じていくことが求められており、包括的地域支援策として、自治会に交付する補助金の算定においても自治会未加入世帯への勧誘を継続して行っていたかどうかを考慮しているところである。しかし、行政としても自治会未加入者対策は極めて重要な課題の一つと考えており、これまでも自治会加入を呼びかけるための市報への定期

掲載を初め、転入者へのチラシの配布や開発業者への協力要請を行ってきたところである。今後も自治会と行政がお互いに連携協力しながら、自治会への加入促進に資する対策の研究に努めてまいりたい。

会派視察報告 薫風

十月十五日から十七日の三日間の行程で福島県、いわき市、宇都宮市の視察を行った。

福島県庁では「障害者工賃向上プラン」について調査を行った。プラン策定にあたっての背景や事業内容の話聞き、県庁の職員がすべての障害施設に直接足を運んで障がい者に対して賃金向上のための方針説明をし、協力業者拡大にも力を注いでいるなど、障がい者福祉に大変熱心に取り組んでおられる様子がよくわかった。



宇都宮市教育センターにて視察研修

いわき市では、「NPO法人ザ・ピープル」の活動を通じた環境問題の取り組みを視察した。循環型社会の構築を目指したまちづくりを、行政以上に主婦やボランティア団体を中心になって布のリサイクル運動を中心とした活動など、しっかりとされている様子を見せていただいた。

宇都宮市教育センターでは、学校生活適応支援教室事業について、不登校児童の問題解決に向け「不登校対応システム」を作り、とらいあんぐる・まちかどの学校・つげの木教室などの取り組みを勉強させていただいた。

三視察先ともすばらしい取り組みをされており、本市の教育行政や福祉行政の運営向上に役立てていきたいと思った。